

学校は生きている

校長 栃倉 和則

みなさん、あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

年末からお正月にかけて、文化を意識することが多かったかと思います。クリスマス、大掃除、年越しそば、お正月、年賀状、おせち料理・・・。

みなさんは、どのようにお過ごしでしたか。私が子供のころ、我が家では、大みそかにすべての洗濯物を終える習慣がありました。その年の汚れは、その年のうちにすべて落とすとはかりに、母親が家族に早く風呂に入るように急き立てるのです。そうして、全員が紅白歌合戦を迎えるのでした。みなさんもそれぞれのご家庭の習慣など共有してみると面白いと思います。例えば、お雑煮。具、出汁、味付け。そして、初詣はどこ？などといった具合です。

文化というのは実に多様な、そして抽象的な語です。辞書を紐解くと、社会の中で共有される考え方や価値基準の体系のこと。ある集団が持つ固有の様式こととあります。英語の culture には、「文化」の他に「訓練」、「養殖」、「栽培」という意味もあります。実は、culture は cultivate と同じ語源です。文化も、鍛えたり、育てたりするものなのですね。

豊多摩の文化って、考えたこと、ありますか？「校風」とも言います。学校の風。校風とは、創立以来の基本理念、歴史的伝統、地理的環境などから醸成されてくる、それぞれの学校の特異な雰囲気ないし気風と定義されています。また、この場合の「風」は、その身に感じられる人々のようす、世の中の動きやありさまを表し、名詞に続けて「〇〇風」とすれば、そぶり、ようす、態度などを意味するとあります。古風、和風、洋風、芸風、作風、副校長先生と話してしましたら、剣風という言葉も使われるようです・・・目に見えて感じられるものもあれば、見えない、あくまでも「…な雰囲気」というものも多く含まれます。

それでは、豊多摩の校風はどんなものでしょうか。言語化してみましよう。銀杏並木、広い敷地、豊かな緑・・・外から来られた方々は、そのような物的な環境に目を留めることでしょう。そして、制服がない、管理的な校則がない、伸びやかな雰囲気、生徒たちの挨拶や明るい振る舞いなどを感じてくれるのではないのでしょうか。そんな豊多摩の校風は誰が作ってきたのでしょうか。先生方が生徒たちを放任して、勝手にやらせたらこうなったなどというものでは決してありません。この環境と長い歴史の中で、先輩たちの意を受け継ぎながら、生徒たちが主体となって、先生方とともに作り上げてきたものなのです。

二十年ほど前、新しい学校の立ち上げに携わったことがあります。何もないところから学校を作るのは実に想像を絶する作業でした。二年間の準備期間をたった数人の先生方と、ゼ

口から計画を練り、紆余曲折、試行錯誤、悶々としながら、開校まで辿り着いた記憶があります。教室の配置、机や椅子の購入、カリキュラムの編成、先生方の人事、制服、校則、校歌…そういったものすべてが相まって校風となります。開設に当たった職員たちの思い、入学してきた生徒たちの思い、実にさまざまで、当初の計画通りにいかなかったことばかりです。校風は、決して短い時間で作ろうと思って作れるものではありません。

「考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる」と言ったのは、心理学者ウィリアム・ジェームスです。年始にあたり、みなさんの考え、言葉、行動が皆さんの運命を作り、文化を作るのだということを共有したいと思います。

この校舎も、銀杏の並木も永遠に続くものではないのかもしれませんが、でも、豊多摩の伸びやかな活力ある校風はいつまでも続くことを期待しています。そのためには、そこに関わる者たちが皆、思いをひとつにし、一人一人が大切に引き継いでいく気概がなければなりません。学校の歴史、伝統の主役は生徒自身でなければなりません。大らかに、伸びやかに、今しかできないことに完全燃焼、そして頂点を目指して。

*Touch the Sky!*